

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0871400149
法人名	株式会社 向日葵
事業所名	グループホーム「つどい」
所在地 (電話番号)	茨城県高萩市高萩291番地2 (電話)0293-24-3132

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成20年2月25日

【情報提供票より】(平成19年10月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 29 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	29 人	常勤	10人, 非常勤 19人, 常勤換算 16.9人

(2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	①木造瓦葺 ②鉄骨造瓦葺	
	①平屋 ②2階建て1, 2階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有() 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 100,000 円	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	10 名	要介護4	7 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	55 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	やすらぎの丘温泉病院、高萩協同病院、高萩クリニック、若松歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣を自然に囲まれ小高い場所にあり、非常に日当たりが良くのどかでゆったりとした雰囲気がある。ホームに入るまでの私道にはやや上り坂になっているが、歩行の不安定な方のために両側に手すりを設置し、利用者が外出や散歩をするための安全面への細かな配慮がある。3ユニットは、2階建ての2ユニット、平屋の1ユニットに分かれており、3つのユニットは、ご近所つきあいのように接している。またこのホームの独自の試みとしては、ホームに近所の住人を呼ぶのではなく、外出や散歩時に近隣高齢者の安否確認など、ホームの多機能性を活かした取り組みが行われ、地域に根ざしたホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念や時計の設置・ケアプランの見直しなど、前回評価時に改善点としてあげられた部分について職員全体で取り組み見直しや改善が行われた。またケアプランや立ち上げシートの利用など完全ではないが継続し改善するよう努力されている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、管理者が中心となり自己評価表を作成し、その内容について職員間での意見交換が行われた。今後は、職員全体で取り組み、外部評価をケアの質の向上に活かしていくよう計画している。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政、地域、利用者代表など多くの参加者のもと推進会議の開催がおこなわれている。会議の議事録は、記載保管され閲覧可能になっている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情、意見箱の設置の他家族の面会時など職員から話しかけ、気軽に要望を言って頂ける様に配慮されている。また家族からの意見は、記録されその内容に対応できるよう職員間で話し合いなどが持たれ、改善に向け努力されている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常生活の中で利用者が外出する機会を多く持ち、またホームの敷地の広さや多機能性を活かし地域近隣住人を交えた交流会やイベントを行い地域にとけ込む工夫が行われている。また地域を呼ぶ行動から地域へ出向き近隣高齢者の住宅に気軽に声をかけ安否確認などを行うような、配慮工夫がある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム立ち上げ時の職員と共同で作成された理念を各ユニットに大きく掲示し、スタッフはもちろん来訪者、家族に分かりやすく説明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日頃から職員に対し理念を踏まえケアやその内容について説明し啓発している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの来訪者の受け入れや、イベントなど地域の住民や学生など幅広く受け入れることで、地域に密着できるよう工夫している。また受け入れるだけでなく近隣へ出向き地域高齢者の安否確認など積極的に地域に出向く取り組みをおこなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かし今後のケアの質の向上や、より良くなるよう努力されている。	○	今後は、管理者中心の評価取り組みの他、職員全体で評価に取り組み、ケアの質の向上に努力されたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、行政、家族など多くの参加者のなか適切に推進会議が開催され各参加者からの意見を伺いサービスの向上に努めている。		

茨城県 グループホームつどい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢福祉課やボランティアなど行政に直接出向き、情報の交換収集を積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	つどい便りなど、独自の文書により家族等に利用者の状況を報告している。家族来所時には、職員から積極的に話しかけ家族への報告や要望を聞くように配慮している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回から2回の家族会を開催し苦情や不満を聞く機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、退職や異動は最小限にしている。また3ユニット間の接点を多く持つ様にし、職員が移動したり退職したりしても利用者が混乱しないよう職員が全体を把握出来るよう工夫してる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設に外部講師の講演を依頼し職員全体で学習する場を設けたり、外部研修には、仕事の一貫として参加させ、職員のスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、近隣の同業者との交流として市内で立ち上げたグループホームの連絡会に参加する予定がある。ホーム間での行き来や職員の交換研修など配慮していく予定がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、利用者の混乱を最小限にするため、体験入所などで、馴染んでもらい本格利用につながるように配慮し工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が安心して暮らせるように、職員から優しい言葉使いを心がけ、利用者・職員間で気軽に話が出来るように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態を職員全体で把握しその人に応じた生活が送れるよう配慮している。また状態の変化には、職員全体でとりくみカンファレンスなどを用いて全体で把握できるよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族など関係者からの意見や要望を汲み取り、ユニット毎にミーティングや意見交換を行い計画作成に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を個々に作成しその内容にそったケアが提供できるよう配慮している。	○	ケアプランを作成し目標や評価など適切に行われている。今後は記録をさらに簡素化しケア提供の時間を更に増やせるよう工夫されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望や近隣の活動の場としての提供など多機能性を活かした支援が行われている。家族来所に関しては家族の宿泊も可能になっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、利用者の元々のかかりつけ医を変更せず受診出来るよう配慮している。職員による受診送迎が基本だが、特に送迎に関し追加料金などの発生もなく、利用者も気軽に受診することが可能になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や看護師と連携し終末期を看取る配慮工夫がある。また実際に終末期利用者を家族や医師との連携をとり看取りを行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物や個人情報に関しては、事務所へ保管し漏洩が起こらないよう配慮している。利用者に対しても特に羞恥心への配慮など心がけ、居室はすべて内側から施錠が可能になっており個人のプライバシーへの配慮もある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の話を親身になり聴取し利用者のペースに合わせ安心して自由な暮らしが提供できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて食事の準備や片づけなどを手伝ってもらえる様にし、職員と職員全体で食事が出るよう工夫している。食事の雰囲気も明るく話し声が絶えない。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、各ユニットで曜日を設定し個人の入浴を支援している。また排泄物などによる汚染などにはその都度対応出来るようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、洗濯、掃除など利用者の個性や状態に応じて役割をもって頂くようにしている。また縫い物や編み物など利用者独自の楽しみごとなどにも配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に一度ドライブなど遠出を計画し実施している。また天気のいい日などの散歩などその時の利用者の状況に応じた外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行っていない。利用者の出入りは自由になっている。夜間は防犯上施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管轄消防署指導のもと、避難訓練や初期消火活動の訓練など定期的に行っている。また全職員は救命講習を受け更新講習などを必ず受けるよう徹底している。	○	大規模災害に対しての非常食や、利用者の安全や緊急時の生活を考慮した備蓄品の準備など今後取り組まれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や排泄回数など個人で記載され、その日の状況が把握出来るよう配慮している。	○	今後は利用者個人の水分摂取量など職員全体で把握しその内容を細かく記載し把握出来るよう工夫されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、タンスや本棚など家庭的な雰囲気が作られており日当たりの良い場所に設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族協力の下馴染みの物などを持ち込まれその人らしい居室づくりに工夫されている。		